

火山災害予測・対応のための基礎情報



大場 司

教授 博士（理学）

Tsukasa OHBA

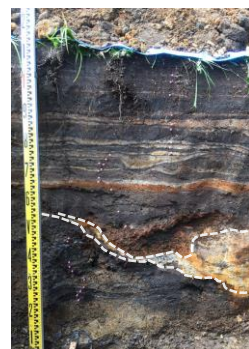
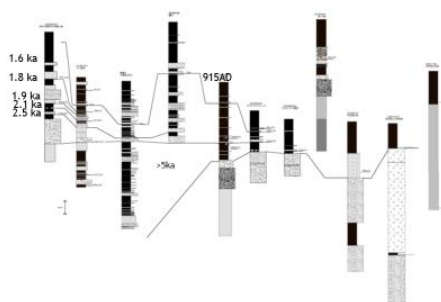
国際資源学研究科 資源地球科学専攻

研究キーワード

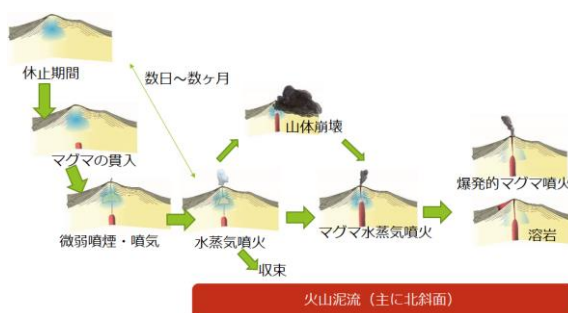
火山防災, 火山現象, 防災計画, ハザードマップ

研究概要

火山災害を軽減するには、将来発生する火山現象の様式、発生頻度、影響範囲を正確に予測し、適切な対応方法を講じることが重要である。大場は地質学的見地から、東北地方等の活火山を対象として、各火山における発生現象の傾向（噴火様式など）、発生頻度、影響範囲を調査研究し、行政とともに防災対応の検討を行ってきた。火山によって災害の特徴は異なり、突発的な水蒸気噴火の発生が頻発する火山（秋田焼山や栗駒山）もあれば、噴火活動に先んじて前兆現象が明瞭に現れる火山（鳥海山等）もある。東北地方の多くの火山では、噴火に伴う火山泥流・土石流も防災上考慮すべき現象である。十和田湖のように噴火頻度が低くても、大規模な火砕流を伴う噴火をする火山もある。防災計画策定やハザードマップ作成には、火山の個性に合わせた対応が必要である。



噴火の頻度、年代、様式を決定した（鳥海山）



将来の噴火推移の予測（噴火シナリオ）

予想される応用例

- ・ハザードマップ・地域防災計画作成時の情報
- ・災害に対する施設・インフラの安全性評価

産業界へのアピールポイント

活火山周辺自治体等における防災対応では、火山の個性に関する専門知識が必要です。最新の知見の提供や、新たな調査分析が可能です。